

## 第1回 ロボット・ワークショップ～IN 大和ハウス工業株式会社～ レポート

2012年7月7日(土) 大和ハウス工業株式会社にて、ロボットスーツ HAL®福祉用(以下 HAL®)を導入している医療・介護施設同士の交流を深める目的でワークショップが開催されました。

自立動作を支援するロボットが少子高齢社会に必要なという考え方から、大和ハウス工業ではロボット事業部門を設立し、HAL®をはじめとする最先端ロボット技術の普及活動を行っています。当初は介護する側の負担を軽減する目的で筑波大学が開発した HAL®ですが、2008年から大和ハウス工業が国内の総販売代理となり、脚に障がいをお持ちの方の歩行訓練補助ツールとして、医療・介護施設による導入実績を積み上げています。

今回は HAL®を導入しているいくつかの施設の導入事例が紹介されていました。その中でとても印象的だったのは、各施設が試行錯誤し、様々な角度からアプローチをしている段階ですが、少しずつ成果が上がっている事例も増えている点でした。HAL®は未知の可能性を秘めているツールです。HAL®がサポートをしてくれれば、より多くの時間訓練を続けることも可能になると期待されます。

紹介された中には不完全麻痺の脊髄損傷者へ対する使用事例も多く、通院患者の訓練に取り入れている施設もありました。

ワークショップへは多くの医療・介護施設やロボット関連企業の関係者も来場しており、HAL®の活躍に注目が集まっていました。大和ハウス工業株式会社では今期より営業スタッフに理学療法士も採用し、より高いレベルでの提案やフォローができる体制の構築に取り組んでいます。HAL®の普及拡大の実現に向けて、今後も期待が高まります。

HAL®に関するお問い合わせは大和ハウス工業株式会社ヒューマン・ケア事業推進部ロボット事業推進室 (<http://www.daiwahouse.co.jp/robot/>) へお願いします。